

美術 I

教 科	芸術科	単位数	2	学科・学年	全科 1年
使用教科書	高校生の美術1 (日本文教出版)	副教材等		スケッチブック、配布プリントなど	

「美術 I」はどんな科目？

中学校で学んだ創造的な表現と鑑賞の力をさらに伸ばすとともに美術文化や生活と美術についての理解を深めます。

「美術 I」の学習の特徴は？

美術の表現分野の中からいくつか作品を制作し、自己の芸術観を広げたり表現の基礎基本を踏まえながら技能を高めていきます。また、作品鑑賞を行い作者の心情や表現意図を意識しながら、作品の良さや美しさ、現代や伝統及び地域の美術の特質などを感じ取ったり理解することで生涯にわたって美術を愛好する心を培います。

「美術 I」で大切なこと(留意点)は？

- ・「見る」から「観る」へ、また「鑑る」(眺めてみるから観察することへ、また心の目を通して感じ、モノや事象の本質を理解できるようにする)ことを心がけること。
- ・物事の本質を理解し、自分のオリジナル作品を制作すること。
- ・美しいモノや情景、独創的な作品をみたり触れたり制作しながら考え、自分の芸術観を磨くこと。

1. 学習の計画 (どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。)

	月	学 習 内 容 (単元名)	学 習 の ね ら い
1 学 期	4	オリエンテーション	・教科書の図版等を鑑賞しながら美術の各分野について知るとともに、一年間の学習の見通しをたてる。
	5	【A表現、絵画】 自分の手を描く ・鉛筆で描く ・ペンで描く ・棒人間を描く ＜中間考査＞	・観て、触れて気づき、知る、感じることの大切さを理解する。 ・鉛筆とペン、描画材料の特徴を理解しながら表現する。 ・光と影を意識し、立体感、存在感を表現する。 ・人物の描き方を理解する。
	6	【A表現、デザイン】 「ロゴマーク」制作 ・色彩と 配色 ・シルクスクリーン版画制作 ＜期末考査＞	・美術の分野、純粋美術とデザインのちがいについて理解する。 ・コンセプトの重要性を理解する。 ・マークの役割とその特徴を理解し、自分のロゴマークをデザインする。 ・色彩の基礎基本を理解し、マークの配色に活かす。 ・生活と色彩について考える。 ・シルクスクリーン版画で、スケッチブックの表紙に印刷する。 ・孔版画の特徴と、多版多色印刷を理解し製版、印刷をする。 ・ずれの無い美しい印刷をする。
2 学 期	7	{B鑑賞} ロゴマーク発表と鑑賞 【B鑑賞】 DVD「岩井俊雄と奈良美智の世界」鑑賞 【A表現、映像メディア表現】 パラパラ漫画制作	・言語活動として作品コンセプトについて発表する。コンセプトの大切さを確認するとともに、他者の作品の意味を理解し、良さを味わう。 ・現在活躍している2人の芸術家の異なる表現と制作現場を鑑賞し、現代美術における表現方法の多様化を知るとともに自らの表現について考える。 ・パラパラ漫画を制作し、1枚の絵から映像へと思考を発展する。

2 学 期	8 9	【A表現、絵画・彫刻】 モビール制作 ＜中間考査＞	<ul style="list-style-type: none"> ・動く絵画といわれるモビールの特徴を理解し、回転による変化を工夫する。 ・テーマに合わせ平面から立体、空間へ思考を広げる。
	10 11	 ＜期末考査＞	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の素材を生かし、平面、立体のパーツを作成する。 ・個々のパーツの美しさと全体のバランスを考慮した構成にする。
3 学 期	12	【B鑑賞】 日本の名作品鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習をとおして作品に触れながら、日本的な美と作品の特徴についての理解を深めるとともに日本美術に親しみをもつ。
	1 2	【A表現、デザイン】 ペーパーナイフ制作	<ul style="list-style-type: none"> ・道具としての実用性と、造形美を兼ね備えた立体作品をデザインする。 ・ユニバーサルデザインを意識し、使いやすさと安全性を追求する。 ・木の性質と加工方法を理解し、道具の使い方を工夫して安全な作業を行う。 ・自分や仲間のデザインの違いや良さを味わう。
	3	＜学年末考査＞	

2. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の4つの観点から行います。		
美術への 関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・レポート ・観察（授業準備・態度）
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・下描き ・作品 ・観察（制作プロセス）
創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・レポート ・観察（制作プロセス）
鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解しそのよさや美しさを創造的に味わっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・発表、質疑応答 ・観察（態度）
※美術 I では、作品課題がすべて提出されていることが、修得の条件となります。		
1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。		

3. 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

<p>・「美術は上手に絵を描けないから嫌い」という声を耳にします。また、写真のようにその被写体に似せてリアルに描いたりすることが大事だと思っている人も多いと思います。しかし、美術で大切なのは「どれだけその被写体や主題に向き合えるか」ということです。写真と違って絵は見えるものをすべて描かなくてもいいし見えないものを描くこともできるのが特徴です。似てる、似てないではなく自分の目でしっかり観て、その被写体から感じることを、自分の思いや願いを色や形で思ったように表現し、世界に1点しかない自分の作品をつくれるようになってください。</p> <p>・鑑賞は作品制作の大切な要素です。制作のヒントは自然の造形や先人の名作、仲間の作品など、自分の周りにたくさんあります。多くのヒントを取り入れながら自分の考えをまとめることで納得のいく作品をつくることのできるでしょう。また、鑑賞によってたくさんの刺激を受け、考えることで豊かな心を育ててください。</p> <p>・毎回授業の最初に掲げる本時の目標、ポイントを踏まえながら取り組んでください。評価もそれに沿って行います。</p>
